

楽器博物館を
紹介するのじゃ!
神秘的な世界へ
出発なのじゃ。



いろんな時代へタイムスリップ!

世界屈指の博物館で外国旅行を

浜松市楽器博物館

世界中の楽器が一堂に会す夢のような空間があるとしたら、誰もが足を運びたくなるのではないだろうか。欧米諸国の歴代のピアノやサクソフーン、ヴァイオリン、煌びやかな装飾の施されたインドネシアのガムラン、ミャンマーの宮廷楽器からオセアニアやアフリカの楽器まで、実に1300点もの楽器が勢ぞろいする場所が浜松にはある。浜松市楽器博物館。ここには、どれだけ世界を旅しても出会いきれないほどの数の楽器が世界中から集められている。日本で唯一の公立楽器博物館だ。

入り口で出迎えてくれるのが、黄金色に輝くミャンマーの宮廷楽器の数々。「幸せのシンボル」といわれる空想上の大きな動物が目を引く。一階はアジアの楽器、地下には欧米諸国やアフリカ、オセアニアの楽器が並び、館内を一周すると、ちょうど世界を

一周するような造りになっているのも面白いところだ。常設展の他にも毎月数々のイベントが行われており、企画展や特別展、コンサートやレクチャー、コンサート、講座やワークショップなど、いつ訪れてもその魅力を堪能することができる。

楽器は、遥か昔から人々の暮らしに寄り添い、文化や文明とともにその音や形を変えてきた。だからこそ、世界の文化の数だけ楽器の種類がある。世界各国の人々が何を思い、どんな音を求めたのか。楽器の向こう側に見える人々の暮らしに思いを馳せれば、世界中を旅しながらタイムスリップすることだってできる。

素敵な旅を、浜松市楽器博物館で。



ミャンマーの宮廷打楽器じゃ。
煌びやかじゃの。

100年前の
オルガンじゃ。



歴史ある民族楽器から、近代の電子楽器まで、幅広い時代の楽器が展示されているのじゃ。展示品はなんと1300点!見たことない楽器ばかりじゃの〜。

展示楽器の前に置かれた視聴機で、その楽器の音を聞くことができるのじゃ。館長の嶋さんと一緒に、チェンバロの音に聞き惚れてしまったのじゃ〜。



体験ルームでは、世界の楽器を自由に演奏できるのじゃ。アフリカの太鼓・ジェンベを叩く拙者の姿、様になつとるじゃろ!



拙者がくぎ付けになった楽器じゃ!

1720年頃にイタリアで作られた、現存する世界最古のピアノのレプリカじゃ!江戸時代にはピアノがあったんじゃな。



な、な、なんと!全長4m、世界最大級の割れ目太鼓『タムタム』じゃ。ヴァヌアツの打楽器で、祭りや儀式などには欠かせないそうじゃ。上部に精霊が彫られているという、何とも神秘的な楽器じゃ。



1590年にフランスで考案されたといわれる、低音ラッパ「セルバン」じゃ。蛇かと思つてドキドキしたのじゃ〜。



浜松市楽器博物館

浜松市中区中央3-9-1 ☎053-451-1128

開館時間 / 9:30~17:00

休館日 / 第2・4水曜(祝日の場合は翌日・8月は無休)

入館料 / 大人400円、高校生200円、中学生以下無料

<http://www.gakkihaku.jp/>